

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	強度近視黄斑円孔網膜剥離に対する inverted ILM flap technique を用いた硝子体手術の有用性についての研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2011年1月から2019年8月までに強度近視眼での黄斑円孔網膜剥離に対して初回硝子体手術が施行された患者さんが対象になります	
③概要	
<p>強度近視眼での黄斑円孔による網膜剥離(MHRD)はしばしば重篤な視機能障害を起こします。これまで MHRD に対する様々な治療方法が報告されていますが、順調な黄斑円孔の閉鎖および良好な視機能の回復は未だ困難です。近年新しい手技として Inverted ILM flap technique(内境界膜フラップ翻転法)を用いた硝子体手術の有用性が報告されていますが、この手技の効果は未だはっきりと定義されていません。そこで今回の研究では MHRD に対する inverted ILM flap technique 併用硝子体手術を従来の方法と比較し、その有用性について検討することとしました。</p>	
④申請番号	2020-0024
⑤研究の目的・意義	Inverted ILM flap technique が強度近視黄斑円孔網膜剥離に対する有用な術式であるかどうかを検討します
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2024 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている従来の術式と新しい術式の治療行為を受けた患者さんの検査データ及び診療記録を使用させていただきます。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	診療記録(年齢、性別、治療内容、検査結果)
⑨利用する者の範囲	新潟大学 眼科 長谷部日、寺島浩子、中野英之、上田恵理子、吉田博光、佐藤弥生、中野里絵子
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	本学：新潟大学 眼科 助教 寺島 浩子
⑪お問い合わせ先	<p>所属：新潟大学眼科 医局          氏名：寺島 浩子          Tel：025-227-2296          E-mail：aochan@med.niigata-u.ac.jp</p>